

【授業の到達目標および概要】

「食環境」の概念を通して、グローバルな視点から食・栄養問題を理解し、かつ問題解決能力を強化することを目標とする。

具体的には、まず「食環境」の概念を通して、環境が食・栄養に及ぼす影響について学ぶ。次に、食環境の中でも国際的潮流であるグローバリゼーション、および国際的に重視されているジェンダーおよびリプロダクティブヘルス/ライフサイクルアプローチを取り上げ、これらについて理解した上で、食・栄養との関係を討議する。最後に、事例演習を行い、本授業で学んだ食環境に絡んだ問題についての解決能力を磨く。

【授業計画】

- ① 食環境の概念、食環境形成に影響を及ぼす横断的要因
- ② 栄養への世界的関心とコミットメント、食・栄養に関わる妊産婦と乳幼児の健康に関する最近の知見
- ③ 食栄養とグローバリゼーション
- ④ 食・栄養とジェンダーの関係
- ⑤ 食・栄養とリプロダクティブヘルス/ライフサイクルアプローチの関係
- ⑥ 事例演習：事前に配布された事例をもとに、クラスにて問題解決に向けた討議
- ⑦⑧ まとめ

【授業外学習】

指定された論文を読み、授業でその要約を発表できるよう準備すること。指定された事例について分析し、授業でその結果を発表できるよう準備すること。

【成績評価の方法・基準】

文献抄読発表 (50%)、事例分析発表 (25%)、レポート作成 (25%)

【教科書】

指定なし。

【参考書】(参考文献)

1. キャロライン・モーゼ著 久保田賢一・久保田真弓訳 (1996) ジェンダー・開発・NGO 私たち自身のエンパワメント 新評論.
2. F.M. ラッペ、R. シュアマン著 戸田清訳 (1998) 権力構造としての〈人口問題〉女と男のエンパワメントのために 新曜社.
3. 早瀬保子 (1999) アフリカの人口と開発 アジア経済研究所.
4. アマルティア・セン著 黒崎卓・山崎幸治訳 (2000) 貧困と飢饉 岩波書店.
5. 青山温子、原ひろ子、喜多悦子 (2001) 開発と健康 ジェンダーの視点から 有斐閣選書.
6. 田中由美子、大沢真理、伊藤るり編著 (2002) 開発とジェンダー：エンパワメントの国際協力 国際協力出版会.
7. 佐藤寛・青山温子編著 (2005) 生活と開発 日本評論社.
8. DVD “Darwin’s Nightmare”

【教材】

授業にて随時プリントを配布する。

【備考】

参加型手法を取り入れながら授業を進めることにより、授業にて提示される食環境の問題共有をめざす。また、現場での実践をより身近に理解してもらうため、テーマ毎に事例の検討を行い、さらに視聴覚教材を適宜活用する。